



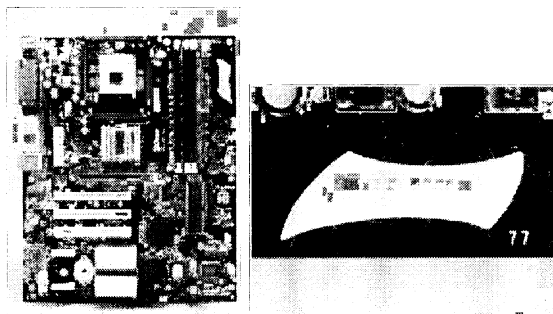
■ 梶ノ木隆のPC実験室 ■

真空管アンプ搭載マザー「Aopen AX4B533-TUBE」を試す

今年6月のCOMPUTEX TAIPEIでAOpenのブースに展示され、その発想の奇抜さで話題を集めたのが「AX4B-533 Tube」である。一見通常のアンプに見えるが、オーディオのアナログ出力に真空管を利用したアンプ搭載するという、非常に「アナログ」なマザーボードである。その効果はいかほどなものか、という事で早速ためしてみた。

■ マザーボード上に真空管アンプを実装

AOpenから登場したAX4B-533 Tubeは、同社製品であるAX4B-533(日本では未発売)をベースとし、サウンド出力部に真空管アンプを搭載したPentium 4/Celeron向けマザーボードである。真空管を使ったオーディオアンプといえば、懐かしさを覚える読者もおられるだろうが、広く普及した半導体アンプや、最近主流のデジタルアンプには無い「味」を求めて、今も一部のオーディオマニアの間では使われているし、そうした層を狙った製品や組み立てキットも今なお存在している。本製品では、PCIスロット3本とCNRスロットをAX4B-533から取り除き、空いた場所に真空管アンプを実装。AC'97 Codecのオーディオ出力をここに直結することで、「味のある音声出力」ができることをウリとしている。



AOpenのAX4B-533 Tube。上部3分の2をデジタルとアナログの融合を成功させたことを示す見れば普通のATX「Tube Sound」マザーだが、下部が「TECHNOLOGY」のエンブレム
ちょっと異様な光景 レム

【追記】初出時にエンブレムの数字がシリアルナンバーであるという記載がありましたが、読者から同じ番号のボードを持っているというご教示がありましたので削除いたしました。

なお、本製品は現在では入手がかなり困難となっている。それもそのはずで、本製品はAOpenの直販サイトで「100枚限定予約販売」という形態を取られたからだ。本来は日本市場に投入するつもりがなかったため、このような限定販売になったそうだが、それだけ日本国内での販売を望む声があったということだろう。購入価格は25,000円(その後米国からの直輸入品が秋葉原の店頭でも並んだ)。

真空管アンプ搭載という時点で、イロモノ的な匂いがしてくるこの製品だが、限定予約販売というオマケがついて、さらに食指を動かされる製品となっている。マザーボード上には真空管アンプ搭載をア